

高齢化問題に横断型で挑む

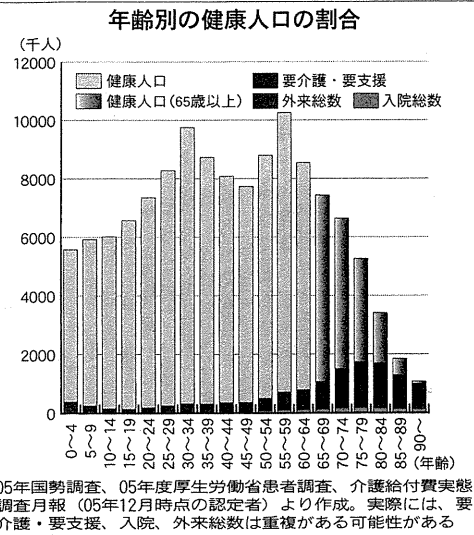
3人1人が高齢者—この驚くべき数字が、20年後の日本の姿を、少子高齢化が進み、かつては均等に取れていた人口ピラミッドの形が年々変えている。これらさまざまな機能していく制度やサービスも、国全体をあげて考え直さなければいけない時期に来ている。その中で、東大は科学的な知識を提供する役割を担おうと模索していることだ。

(取材：笠柏也)

危機を前に知識結集

専門研究拠点設立

今年3月、本郷キャンパス、産前理事、副学長が切り出した山上会館の一室、記者会見。4月に発足すること見が明かされた。日本初の「高齢社会総合研究センター」の設立が決定した。平尾公



05年国勢調査、05年度厚生労働省患者調査、介護給付費実態調査月報(05年12月時点の認定者)より作成。実際には、要介護・要支援、入院、外来総数は重複がある可能性がある



高齢者教習の様子(鎌田教授提供)

世界のエントロピー 成立していく過程を「開始研究を牽引(けんいん)し、終見てきた。成立する過程で多くの失敗を東で見てきた。その経験は、東大の特定教授は、エントロピー機構立ち上げにも役立つという学問分野が学際。た。秋山特任教授は言う、この研究プログラムとして、東大のエントロピー

者を集めて、ネットワークを作るという構想がなされた。これからは、生90年の時代。私の世代が上初めとなる。高齢社会総合研究センター(機構)は、同機構の秋山弘子特任教授(老年学)研究拠点の授のことで、高齢社会の設立が決定した。平尾公

る。個人の人設計の問、高齢化した人口を抱える社会システムの問題。特任教授は深刻で、これら均等に取れた人口ピラミッドを前提として作られてきた制度や商品、サービスが取り残された。この多くは、同機構の前身「エントロピー」寄付研究センターが定めた06年より、研究センターや学部横断型教育プログラムを進めてきた。

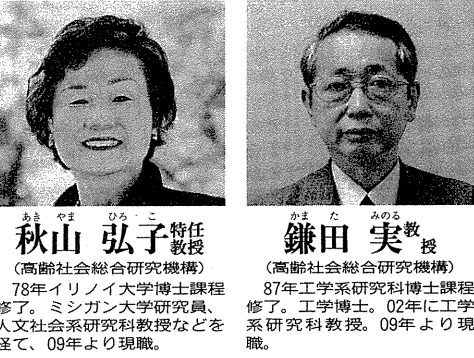
学、経済学、心理学などが連携する必要がある」と秋山特任教授は指摘する。その課題を踏まえ、同機構には、学内14組織から25人の推進メンバーが集まった。出身は医学、工学、社会学、法学、経済学と多岐にわたる。これのメンバーの多くは、同機構の前身「エントロピー」寄付研究センターが定めた06年より、研究センターや学部横断型教育プログラムを進めてきた。

研究がこれまでの多くの研究と異なるのは、「介入 Research」である。データを集めるだけでなく、県や市などと一緒に、実際に地域の社会シナリオを築き、高齢者が住みやすくなるように実証実験をする。例えば、鎌田教授

だが、世界的に見ても、工学がエントロピー研究に参加している例は少ない。エントロピー研究の発祥地・ミシガン大学でも、社会学と医学が中心。こうした中で、自動車工学が専門の鎌田教授と、社会心理学が専門の秋山特任教授は、企業にも注目する

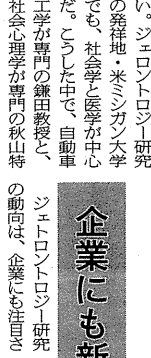
授は秋田県と連携し、「相乗のデマンド型のパス」を設計し、工学や医学などが実際に解決法を模索するという共通の姿勢。「課題が明確になれば、ある程度は技術で解決できる」と鎌田教授は話す。

授は秋田県と連携し、「相乗のデマンド型のパス」を設計し、工学や医学などが実際に解決法を模索するという共通の姿勢。「課題が明確になれば、ある程度は技術で解決できる」と鎌田教授は話す。



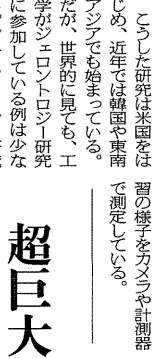
秋山 弘子 特任教授 (高齢社会総合研究機構)

78年イリノイ大学博士課程修了。ミシガン大学研究員、人文社会系研究科教授などを経て、09年より現職。



鎌田 実 教授 (高齢社会総合研究機構)

87年工学博士課程修了。工学博士。02年に工学系研究科教授、09年より現職。



森田 朗 教授 (政策ビジョン研究センター)

76年法学部卒。04年より公共政策大学院教授。08年に現職。09年より高齢社会総合研究機構を兼任。

授は秋田県と連携し、「相乗のデマンド型のパス」を設計し、工学や医学などが実際に解決法を模索するという共通の姿勢。「課題が明確になれば、ある程度は技術で解決できる」と鎌田教授は話す。

授は秋田県と連携し、「相乗のデマンド型のパス」を設計し、工学や医学などが実際に解決法を模索するという共通の姿勢。「課題が明確になれば、ある程度は技術で解決できる」と鎌田教授は話す。

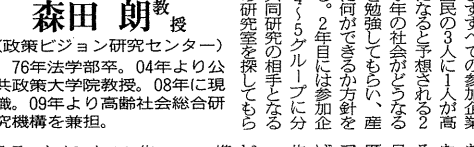
08年度から学部3、4年生向けに学部横断型教育プログラム「エントロピー」が始まった。高齢社会に関する授業を全学から集めたのだ。所定の単位を取得すると、高齢社会総合研究機構から修了証を受け、取ることができる。秋山特任教授は「初年度から予想以上に受講者が多く、特に法学部の学生が多く見受けられた。産業界からも高齢社会に関する知識を持つ若い世代が注目されている」と話す。

授は「まだ課題未示した結果をまとめた。森田教授は「介入 Research」である。データを集めるだけでなく、県や市などと一緒に、実際に地域の社会シナリオを築き、高齢者が住みやすくなるように実証実験をする。例えば、鎌田教授

授は「介入 Research」である。データを集めるだけでなく、県や市などと一緒に、実際に地域の社会シナリオを築き、高齢者が住みやすくなるように実証実験をする。例えば、鎌田教授

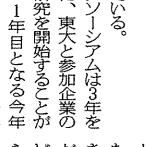
授は「介入 Research」である。データを集めるだけでなく、県や市などと一緒に、実際に地域の社会シナリオを築き、高齢者が住みやすくなるように実証実験をする。例えば、鎌田教授

授は「介入 Research」である。データを集めるだけでなく、県や市などと一緒に、実際に地域の社会シナリオを築き、高齢者が住みやすくなるように実証実験をする。例えば、鎌田教授



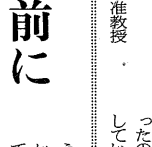
森田 朗 教授 (政策ビジョン研究センター)

76年法学部卒。04年より公共政策大学院教授。08年に現職。09年より高齢社会総合研究機構を兼任。



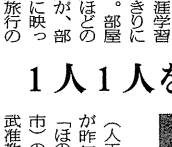
鎌田 実 教授 (高齢社会総合研究機構)

87年工学博士課程修了。工学博士。02年に工学系研究科教授、09年より現職。



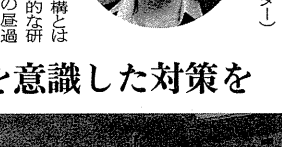
秋山 弘子 特任教授 (高齢社会総合研究機構)

78年イリノイ大学博士課程修了。ミシガン大学研究員、人文社会系研究科教授などを経て、09年より現職。



森田 朗 教授 (政策ビジョン研究センター)

76年法学部卒。04年より公共政策大学院教授。08年に現職。09年より高齢社会総合研究機構を兼任。



鎌田 実 教授 (高齢社会総合研究機構)

87年工学博士課程修了。工学博士。02年に工学系研究科教授、09年より現職。